富士山憲章 NewsLetter

2017
11

No.124

富士山憲章
富士山美化啓発キャンペーン

本キャンペーンは、山梨・静岡両県で制定した「富士山憲章」の普及のため、また富士山を訪れる登山者や観光客にマナーを呼びかけ、富士山の環境保全への協力を促すために毎年実施している啓発活動で、富士北麓駐車場（富士吉田市）での実施は今年で4回目となりました。

富士スバルラインがマイカー規制期間中の7月15～17日、8月10日～16日の10日間活動し、株式会社伊藤園の皆さんや山梨県内の中学生、高校生の皆さん、県外からも多くの方に参加していただきました。今回は80名を超えるボランティアの応募をいただき、10日間の参加人数はのべ109名になりました。

8月14日　富士山五合目行きのバスを待つ観光客や登山客の行列

キャンペーンに参加した甲府第一高校の皆さんは富士山レンジャーのよろず相談を受けたり、株式会社伊藤園の皆さんは、キャンペーンの後、東富士五湖道路の側道の清掃活動も行い、可燃ゴミ9kg、不燃ゴミ5kgを回収しました。

10日間で配布したゴミ袋は約4,300枚で、昨年に比べるとゴミ袋を持参している方が多かったように思います。その中でボランティアの皆さんは、活動をより理解してもらえるよう、配り方や呼びかけ方を工夫してくれました。

7月15日　ごみの持ち帰りを呼びかける（株）伊藤園と白根高校の皆さん

8月16日　草むらのゴミ拾いをする富士学苑高校の生徒さん

また、本年度は啓発活動だけでなく、駐車場内の清掃活動も行いました。キャンペーン中の回収量は、可燃ゴミが約35kg、不燃ゴミが約10kgで、タバコの吸い殻やペットボトルのほか、草むらの中に靴底が剥がれたスニーカーや雨具などが放置されており、ボランティアの皆さんも驚いていました。

美しい富士山の自然や景観を後世に引き継ぐために、一人ひとりがゴミを持ち帰る」意識を高め、登山道だけではなく山麓の環境も守っていきましょう。

富士山エコトレッキング

「富士山にゴミを持ち込まない・捨てない・気づいたゴミは拾う」という趣旨で開催している富士山エコトレッキング、本年度の第一回目は7月29日（土）に開催しました。公募で集まった5歳～79歳の幅広い年代の参加者24名とともに、奥庭～富士山五合目～御中道を散策しながら清掃活動を行いました。当日は雨が降ったり止んだりの天候でしたが、雨ならではの潤った森林や植物を観察することができました。

カラマツ

シャクナゲ

ここ数年、「ゴミは持ち帰る」という登山マナーが浸透し、五合目以上の山岳部分はきれいになりました。奥庭や御中道などのトレッキングコースにも、目立ったゴミはほとんどありません。しかし、日本だけでなく世界から多くの方が訪れる五合目では、ロータリーやレストハウス周辺にまだまだゴミが落ちています。

奥庭　自然解説員による説明を受けながら散策する参加者の皆さん

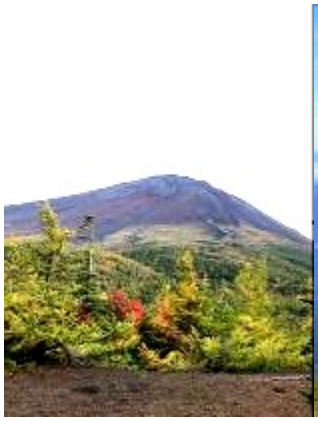
今回のエコトレッキングでも、五合目のロータリー周辺を中心に、可燃ゴミ（タバコの吸い殻、ビニール・紙類等）2.2kg、不燃ゴミ（缶類等）1kgを回収しました。参加者から、「開山中の混雑が原因では?」や

御中道　散策しながらゴミ拾いをする参加者

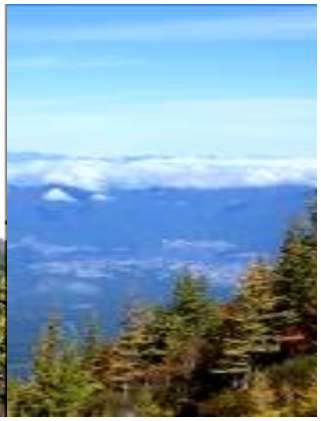
「観光客のマナーがまだまだ。“持ち帰りの徹底”を呼びかけることが大事」といった意見があがりました。

また、10月22日(日)に予定していた秋のエコトレッキングは、台風の接近に伴う荒天が予想されたため中止となりました。毎年多くの応募をいただき、今年は46名というたくさんの方々が参加を予定していたため、とても残念でした。

秋の五合目では、カラマツやナナカマドの黄葉・紅葉が楽しめます。10月18日(水)、奥庭・御中道を訪れた時の写真を掲載します。来年こそは秋晴れの奥庭や御中道を皆さんと一緒に楽しめればと思います。



奥庭



御中道からみた景色

富士山吉田口環境保全推進協議会 清掃活動

10月31日(火)、富士吉田市役所や自然保護管、富士山レンジャーなど約20名の参加者とともに、吉田口遊歩道、約1.5㎞の区間で清掃活動を行いました。散策中のゴミというよりは、埋められた不法投棄物の露出といった有り様で、約1時間半の活動で2tトラックがいっぱいになりました。

回収したゴミや不法投棄物

富士山憲章 国道キャンペーン

ぐるり富士山風景街道一周清掃と連携し実施する、国道キャンペーンが始まりました。富士山麓の自然環境を守り風景価値を高めるため、富士山を巡る山梨・静岡両県の国道で実施する活動です。

9月30日(土)、忍野村の国道1.6㎞の区間を約30名の参加者とともに清掃し、83㎏のゴミを回収しました。食品パッケージ、空き缶等ポイ捨てされたゴミが多かった中、古タイヤ等の不法投棄物も回収しました。

また、11月11日(土)には鳴沢村の国道4㎞の区間を2班に分かれ活動し、車などから投げ捨てられたと思われるペットボトルや空き缶、ポイ捨てされた食品パッケージやたばこなど、約125.2㎏のゴミを回収しました。

9月30日　活動後、参加者全員で記念撮影

富士山環境保全募金 寄付受納式

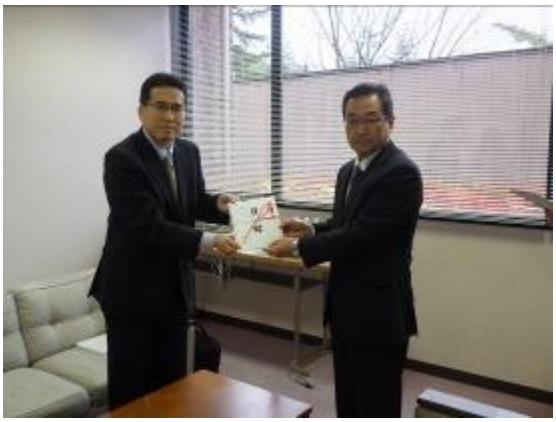
星美学園小学校

寄付のお礼として感謝状を贈呈する富士山憲章山梨県推進会議の志村事務局長

9月14日(木)、星美学園小学校3年生の皆様より、富士山環境保全募金への寄付金の贈呈が、富士スバルライン樹海台駐車場にて行われました。星美学園小学校は、平成12年に富士山ボランティアセンターが設立されて以降毎年、全校児童の皆さんが呼びかけ、集めてくださった募金を富士山環境保全募金にご寄付くださっています。

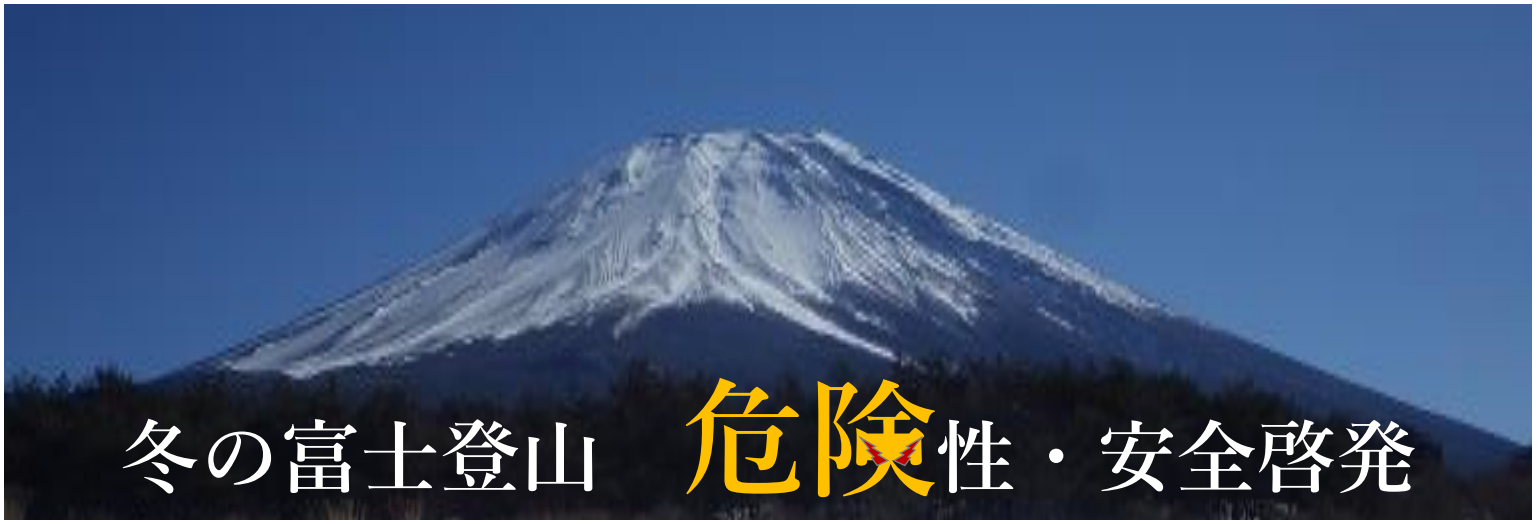
マックスバリュ東海株式会社

10月25日(水)、マックスバリュ東海株式会社様より、富士山環境保全募金への寄付金の贈呈が、富士山世界遺産センターにて行われました。マックスバリュ東海(株)様におきましては、当推進会議で実施している富士山環境学習支援プログラムもご活用いただいており、富士山の環境保全のための様々な活動を継続して実施されています。



マックスバリュ東海(株)総務部の高畑次長より寄付を贈呈いただく様子

皆様より寄せられた寄付金は、富士山の環境保全のための費用として大切に活用させていただきます。誠にありがとうございました。



冬の富士登山　危険性・安全啓発

吹雪の中登山道へ向かう登山者

いつも美しい姿を見せてくれる富士山。特に冬の姿は筆舌に尽くしがたい姿だ。しかしそんな厳冬期の富士山を登るとなると非常に危険だ。気象条件が特に厳しく、突然の突風、吹雪のために滑落し、遭難。場合によっては死に至ることもある。

毎年、山岳遭難事故が数多く発生し、死傷者・行方不明者が出ている。昨年11月には登山歴40年のベテランの登山者も亡くなった。厳冬期の富士山はそれだけ難しい山である。

遭難の多くの原因は気象等の情報不足、観光気分、軽装備、知識・経験不足、無理な日程などが上げられる。そして特に大きな原因が「自分は大丈夫」という過信だ。

悪天候の中登るのはもちろん危険であり、標高が上がれば気象条件はさらに悪化していく。また、閉山した富士山ではトイレが閉鎖されているため、登山者の排泄物が貴重な山岳生態系に悪影響を与えている。

こうした遭難事故の防止や自然環境の保全のために、平成25年、「富士登山における安全確保のためのガイドライン」において3つのルールが制定された。インターネットで読むことができるので、しっかりと情報は手に入れてもらいたい。

(http://www.fujisan-climb.jp/m3oati0000005me4-att/guideline_jp_rev201512.pdf)

1．万全な準備をしない登山者の登山禁止

装備だけでなく、十分な知識と計画を持たない登山者の登山は禁止する。

また、遭難事故が多く起こるのは厳冬期だけに限らない。暖かくなってきた4～6月頃は雪が溶けだし、雪崩に巻き込まれたり、雪に足を取られ転倒したりする。気温が上がり、厳冬期よりも登りやすくなるかというとそうではない。むしろ油断して事故も増える時期である。

富士山レンジャーは山梨県警と連携し、富士吉田登山口の馬返しで、厳冬期の登山者に対し啓発活動を行っている。中には信じられないような軽装備の登山者を見かけることもある。決して自分の実力を過信せず、富士山を安全に登るために、万全の注意を払ってもらいたい。本年度も、警察と連携し、冬山登山の危険性と安全登山を呼びかけていく。

2．「登山計画書」を必ず作成・提出

登山は自己責任。しかし万が一に備えて計画書は必ず作成・提出する。ただし登山計画書で登山を許可したというわけではない。

3．登山者として「携帯トイレ」持参のマナー

トイレは閉鎖しているので、排泄物は回収し必ず持ち帰るようにする。

なお、これらのルールを守ったからといって、厳冬期の富士山に登ってよいという許可が下りるわけではない。

安全登山啓発の様子

りゅうがたけ

竜ヶ岳のダイヤモンド富士

竜ヶ岳は、本栖湖の南岸にある、標高1,485メートルのなだらかな曲線の山です。山登り初級者から上級者まで幅広く愛されています。北面は樹林の間から本栖湖が眺望でき、南面はスズタケに覆われた日の当たる富士山を望みながら歩くことができる楽しい山です。また富士山だけではなく、南アルプスや八ヶ岳の眺望も素晴らしいです。

竜ヶ岳

この山は、頂上の広場から見る『ダイヤモンド富士』が有名です。『ダイヤモンド富士』とは、富士山頂に太陽が重なる瞬間、ダイヤモンドのように輝く現象で、竜ヶ岳からは毎年12月10日ごろから1月10日ごろまで見ることができます。はじめは山頂の右端のダイヤモンドが始まり、徐々に左側に移動します。冬至（今年は12月22日）の前後になるとちょうど真ん中から上がります。そしてまた左側に移っていきます。

日の出の時間は、7時15分から7時40分ごろです。日が出る前の富士山のシルエットや日の出とともに空の色が紺色から濃いオレンジ色に美しく変化していく様子も一見の価値があるので、7時ごろから山頂で待機することをおすすめします。明け方というのは、どういうわけか冷え込むものです。くれぐれも万全な防寒対策を！また、歩き始めは真っ暗なので、ヘッドライトも必須です。

この時期は、各ルートとも足元が滑りやすくなりますので、天候などを確認し、滑り止めなど必要に応じた準備をしていくことをおすすめします。

南面のスズタケの道

南アルプス

【山梨県富士山世界遺産センターからのアクセス】

国道139号線を本栖湖方面へ12km
▼
本栖信号のT字路を右折
▼
200m先の看板を左へ
▼
本栖湖キャンプ場の脇に登山者用駐車場

登山口からの所要時間は、ゆっくり登って2時間半程度で、北面の樹林帯を湖を見ながら登り、南面のスズタケ畑を富士山を眺めながら下るルートがおすすめです。本栖湖キャンプ場横の竜ヶ岳登山者駐車場Ⓐから道路沿いに進み、三叉路をそのまま直進します。Ⓑ青少年スポーツセンターを通り過ぎた道Ⓒを右に曲がり林の中を進むと、黄色い車止めのゲートⒹがあり、ゲートを抜けて右へ行くと、いくつか登山口があります。15分ほど進んだ道路手前の登山道Ⓔが登りやすいです。

1時間半あまり登ると稜線に出ますⒻ。看板に沿って竜ヶ岳方面へ10分ほど進むと山頂ですⒼ。帰りはその看板まで戻り、そのまま左手に見て石仏方向へ進みます。笹に覆われた斜面の中を歩いて、富士山を裾野の集落まで見渡す爽快な道です。足元はぬかるみがちで、冬場は凍結するため注意してください。45分ほど歩くと東屋Ⓗに到着します。さらに45分ほどで登山届用のポストがあるところまで下りきります。そこを左へいくと、行きにあった黄色いゲートⒹに出ます。

そぞろあるき

―三ツ峠 南面の景観編―

三ツ峠山は、富士箱根伊豆国立公園に含まれており、富士山の眺望がよいことで知られている。また、山頂直下の屏風岩はクライミングゲレンデとして多くの人が訪れている。

西側の河口湖方面は傾斜が緩やかで登りやすい。現在では多くの登山者がこのコースを選んでいるようだ。一方、南側の西桂方面は岩が連なり、傾斜が急で険しい。古くは信仰の道として栄えていた。三ツ峠南面は独特の姿なので、これを紹介したい。

富士吉田市から眺める屏風岩

三ツ峠山は富士山の北に位置している。富士吉田市から見ると屏風岩が目立っている。

ところが、三ツ峠駅まで来ると見え方が変わる。一つの山は、三つのコブに見える。山頂からは柄杓流(ひしゃくながれ)川が流れる。川沿いを進むと、それらが岩の塊であるのがさらにはっきりとしてくる。

江戸時代に書かれた甲斐国志には「奇岩峨々トシテ三峰二秀ズ、故ニ三峠ト云フ」とある。この通りに、奇怪な姿の岩が三つ並んでいるのである。

それぞれの岩は東から「東峠・中峠・西峠」と呼ばれていた。屏風岩は西峠ということになる。

柄杓流川と三ツ峠山

登山口には、背丈ほどの高さの「だるま石」がある。大日如来を表す梵字が刻まれている。

「馬返し」と呼ばれるところから岩が増え傾斜が急になる。山頂までの登山道脇には、多くの石仏がある。幕末の修験僧「空胎(くうたい)上人」の時代に奉納されたものだ。弘法大師像を並べた「八十八大師」や秩父、坂東、西国の百観音などがある。ここに登れば、四国巡礼や、全国百か所巡礼ができるという目出たい山なのだ。

三つの岩峰(写真右が東)

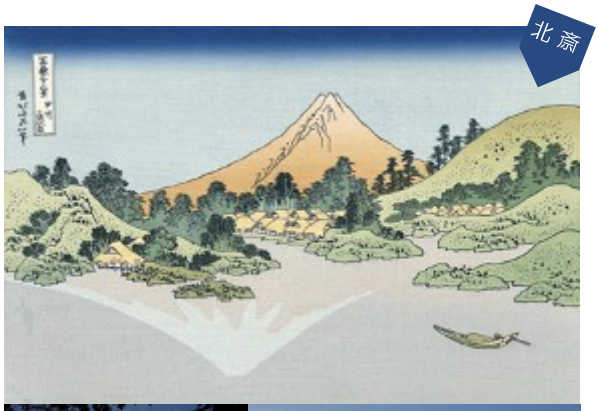
岩場に出ると、視界が広く眺望が良い。東から西へと三つの岩場の根元を迂回して行く。所々に水が流れている。水は岩から染み出ており、しかも年中枯れることがない。山全体が岩なのに不思議だ。

屏風岩の氷柱

冬になると凍りつき、氷柱となって見事だ。屏風岩の上が山頂で、二等三角点がある。点の記には「水峠」となっている。今では、「御巣鷹山、開運山、木無山」の総称と言われることが多い。

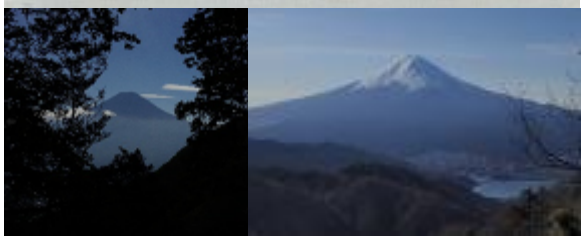
富士山と違い、この山の呼び名は、それぞれの方角からの感じ方によって解釈されているようだ。

屏風岩下の登山道



VS

① 御坂峠



御坂峠と言っても、現在の国道が通る峠、太宰で有名な天下茶屋のある峠、そして北斎や広重が通った峠、これらは場所が異なる。残念ながら、北斎や広重が立ったであろう峠からは、現在は写真のように樹間から富士を探すようじゃ。
峠より少し黒岳に寄ったところで何とか湖も見える場所を見つけたが、ご覧の通り、北斎や広重の様な構図にはならん。広重は『富士三十六景』を風景画では珍しい縦位置で描いた。今日風景写真でも縦位置はあまり使わん。でも御坂ではその縦位置が、狭い峠と奥に広がる絶景を見事に表しておる。それにしても北斎は、峠の高さからは絶対に見えない逆さ富士を、しかも雪化粧させて描くとは…茶目っ気の多い奴じゃ。

今回のテーマは「北斎VS広重」永遠のライバルの二人じゃ。いたずら爺と学者タイプ、顔を見ただけでも性格がまるで異なりそうなこの二人、お主はどっち派じゃ。北斎は七十歳を過ぎて『富嶽三十六景』を描いた。そんな爺が描いたとはとても思えん、大胆で、斬新で、力強い。これには広重も感嘆したであろう。その二年後に広重は『東海道五拾三次』を発表する。以後、二人は風景画だけでなく、花鳥画などでも腕を競い合う。しかし広重が『不二三十六景』を描いたのは北斎の死後のことじゃった。まさか広重なりの北斎へのオマージュではなかろうが。また『富士三十六景』は死後の翌年に発表された、広重最後の作品じゃ。しかも風景画としては非常に珍しい縦位置で描かれておる。もちろん風景写真でも縦位置は邪道と言う者もおる。

② 犬目峠

葛飾北斎
1760-1849

VS

歌川広重
1797-1858

VS

北斎の生涯最後の作品と言われる「富士越龍図」は、宝永噴火の様子を描いている。ネットオークションでは山頂から煙りたなびく偽物をよく見かける。しかも三百万以上の値がついておる。

国道20号を鳥沢宿から県道30号に入る。大きな一里塚を過ぎ、登りきる辺りに宝勝寺がある。この寺の阿吽の席に、北斎や広重がこの辺りから富士山を描いたと看板がある。そうじゃろうか。左の写真、富士山はきれいだが、何か違う。そもそも二人とも手前に街道を描いておる。そこで鳥沢方面に少し戻り、県道が入る場所で撮ってみた。すると山並みが広重に似てきた。だが広重は、見えぬはずの桂川を描いておる。実際には桂川が見える所まで下りると富士山は見えない。不思議じゃ。北斎もまた見えるはずの山並みを捨象し、見えぬはずの富士山の裾野を描いておる。こんな大きくは見えん。見えぬものは写真には写らん。到底真似できぬわ、降参じゃ。

富士山レンジャー活動報告
2017年7～10月

富士山安全登山活動まとめ

富士山が開山する7月1日(土)～9月10日(日)までの間、富士山五合目総合管理センターや六合目の旧穴小屋を拠点に、五合目から山頂の間を巡回し、安全登山指導を行いました。登山マナーの啓発や自然公園法(特別保護地区)に関する周知や指導を基本業務とし、7月16日～17日、8月13日～14日には、山頂までの登山道を夜間巡回しました。

今季、山梨県側の登山者数は前年度比13・6%増となる、およそ17万3,000人に上り、吉田ルートからの登山者数が最も多かった日は8月12日(土)の4,54人でした。(環境省発表)

7月12日　安全登山指導の様子

夏休み期間の週末には、依然登山者が多く、御来光を目的とした登山渋滞が発生しました。夜間巡回では、テントの設営といった禁止行為を行う登山者もおり、撤去してもらったり、外国人の軽装登山者も多く見られたため、注意・啓発を行いました。また、登山靴のソール剥がれも目立ち、その多くが登山道に捨てられていたため、回収しました。登山する前に装備品をしっかり確認し、必要に応じて補修キットを持つなど、万全の態勢で富士登山に臨みましょう。

8月14日　テント(禁止行為)

8月14日　渋滞の様子

8月14日　渋滞の様子

7月24日　ソールの補修

富士山の五合目以上の山岳部や青木ヶ原樹海は、富士箱根伊豆国立公園の特別保護地区となっており、溶岩の持ち出しや焚火、テントの設営(工作物設置)、植物や昆虫の採取、動物の捕獲や殺傷、また自動車や自転車での乗り入れやゴミの投棄はすべて禁止行為です。これらの行為は自然公園法違反になります。

富士山中防災訓練

7月5日(水)、山小屋や売店などで構成される「富士スバルライン自主防災協議会」が、噴火を想定した避難訓練を実施しました。噴火警戒レベルが上がったら、登山者に避難を呼びかけることが重要であり、様々なケースを想定した訓練を行う必要があります。この避難訓練には富士山レンジャーも登山者役として参加しました。

防災訓練の様子(7月5日撮影)

富士山をきれいにする会
～後期クリーン作戦～

9月15日、公益財団法人「富士山をきれいにする会」主催の富士山環境美化後期クリーン作戦が開催されました。天候はあいにくの雨模様でしたが、各種団体や企業など、約400名もの参加があり、五合目のロータリー周辺や六合目までの登山道の清掃活動を行いました。

開会式の様子、様々な企業や団体が参加した

各団体ごとに担当区域が決められており、五合目ロータリー周辺で活動しましたが、まあ出るわ出るわ・・・。タバコの吸い殻、アメやガムの包み紙から、空き缶やペットボトル、せっかく集めた焼印入りの金剛杖など。中には植え込みの中など、目の届きにくい場所に隠すように捨ててあり、ひどい有様でした。

また、六合目までの登山道から下の斜面にもゴミがたくさん落ちていましたが、斜面は急勾配で落石や滑落の危険性があるため、目の付く所にゴミが捨てられていてもなかなか回収すること難しい場所でした。今回のクリーン作戦では自衛隊の方々が斜面のゴミ拾いを担当し、きれいになりました。こうして参加者が回収したゴミは、可燃物80kg、不燃物30kg、総計110kgにもなりました。。

閉山した後でしたが、五合目のロータリーは観光客でごった返しており、賑わいを見せていました。やはり外国人が多く、日本人は少ない印象を受けました。そんな中、遠足でやってきた千葉県の小学生たちに、クリーン作戦謹製のポケットティッシュを配布し、ポイ捨て等しないよう伝えると、大きな声で「はい！」と返してくれました。

植え込みの中のゴミを拾う様子

側溝のゴミを拾う様子。たくさん出てきた

かつては「ゴミの山」と呼ばれた富士山ですが、クリーン作戦等のボランティア活動や山小屋の人達の努力によって、かなりきれいになってきています。しかしながら、いまだ登山者が出すゴミは多いのが現状です。

事実、今年の開山期間中には、登山道のゴミが目に余るほど多く、「昔のゴミの山が戻ってきた」とまで言われてしまいました。

富士山にゴミ箱はない。自分の出したゴミは必ず持ち帰る。ポイ捨てを絶対にしない。これらを一人ひとりが守れば、富士山は必ずキレイな山になります。

富士山レンジャーもきれいな富士山を後世に残していくため、日々パトロールやマナー啓発などの活動を続けていきます。

新任レンジャー紹介

よしなり　まさと
吉成　正人

これまで全国各地の山、渓谷、海、湖など自然の厳しさの中にも遊びごころを持って向き合って来ました。世界遺産であり、みんなに愛される富士山を理解し、レンジャーとして取り組んでいきます。

こばやし　ゆうや
小林　由弥

生まれも育ちも富士河口湖町。小さい頃から富士山はとても馴染みのある山でした。しかし地元とはいえ富士山につて知らない事ばかりで大変ですが、勉強しながらがんばっていきます！

富士山世界遺産センターだより５号

富士山世界遺産ガイドの活動

富士山世界遺産センターには、現在40名のボランティアガイドがおり、南館を訪れる一般来館者に向け、世界文化遺産に登録された富士山の「顕著な普遍的価値」を、分かりやすく解説しています。今年度に入り、ボランティアガイドが案内した来館者は、8月末日で3，000人を超えました。これは昨年度一年間の総数、3，205人に迫る数となっています。

ガイドから解説を受ける南館来館者

「富士山世界遺産ガイド」って？

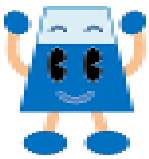
ボランティアガイドの認定は、山梨県が設定したガイド養成講座の受講完了者を対象に行っており、認定を受けたガイドが来館者に対し解説を行います。このように、ガイドの養成、認定から運用までを事業として、県が運営することは、世界遺産を有する都道府県の中では先進的な事例となっています。

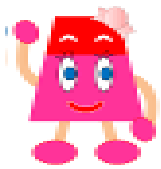
「富士山世界遺産ガイド」心得七ヶ条

ボランティアガイドの心得七ヶ条を紹介します。

私たちは、世界遺産富士山の普遍的価値を普及していくために、富士山世界遺産ガイドとして、『ボランティア精神』に則り、以下のようなガイドを目指していきましょう。

一、ふれあい、おもてなしの心を大切にしましょう。
二、明るく笑顔で接しましょう。
三、身だしなみは整えて迎えましょう。
四、ゆっくり、はっきり、わかりやすい言葉で、相手を見ながら話しましょう。
五、品性のあるガイドを心がけましょう。
六、日々ガイドをするための研修にはげみ、ガイドの技を高めましょう。
七、「無理せず」「仲良く」「いつまでも」を合い言葉に活動しましょう。





この心得七ヶ条は、平成27年12月にガイド会において制定され、現在もこの七ヶ条を念頭に置きながら、日々ガイド活動に尽力しています。

ガイドを利用した来館者の声

ガイドを利用した来館者から、次のような声が寄せられています。

◆ガイドさんのおかげで、世界遺産になった富士山の価値がよくわかりました。これから自分で富士山のことを調べていきますが、そのヒントをたくさんいただきました。

◆なぜ自然遺産ではなく文化遺産になったのか、ガイドしていただいてその理由がよくわかりました。世界遺産のことだけでなく、富士山の魅力を多角的に聞くことができて、とても楽しい時間を過ごすことができました。またセンターに来る機会があったら利用したいです。

◆ガイドさんから、おもてなしの心をいただきました。話もおもしろかったのですが、何よりもガイドさんの親切な心に触れ、気持ちがとてもよくなりました。ありがとうございました。

◆ガイドの○○さんの話がとてもおもしろく、また来たいと思いました。○○さんにありがとうございましたと伝えてください。（南館職員が受け取った「中学生の手紙」から）

たくさんの来館者からこのような感謝の言葉をいただいております。今後もガイドの心得七ヶ条を意識しながら、皆様からの温かいことばを励みにして、活動していきます。

富士山世界遺産センターは、昨年6月22日のオープンから、もうすぐ1年半を迎えようとしています。この間、センターでは様々な事業を展開してきましたが、世界文化遺産に登録された富士山の普遍的な価値を、多くの方々に伝えていくためには、今後も取り組まなければならないことが数多くあります。まだセンターにお越しになったことがない方々に、是非来館していただき、皆様方からの貴重なご意見を伺うことができれば幸いです。ボランティアガイドをはじめ、センター職員一同、皆様方のご来館を心よりお待ちしております。

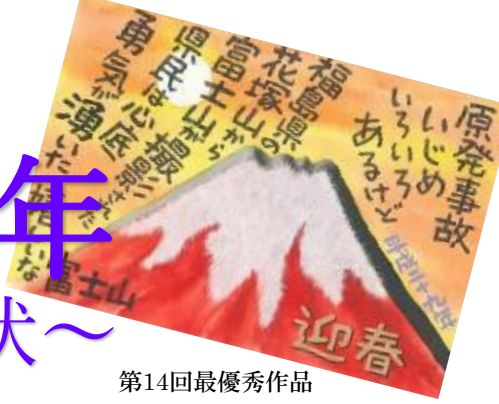
企画展
「マグマの大地『まるび』
―自然と祈り、暮らしの場―」

富士山の噴火によって溶岩流が流下した台地「丸尾（まるび）」は、薪や肥料を採る生活の場となったほか、胎内樹型などの信仰の場にもなりました。富士山の自然が生み出した溶岩と人間の関わりを紹介します。

◆開催期間
平成30年1月1日～2月26日

◆開催場所
富士山世界遺産センター南館内
富士山ステーション

第15回
富士さんへ謹賀新年
～富士山あて年賀状～



第14回最優秀作品

募集期間　平成29年 11月6日～平成30年 1月19日 必着

募集要項

募集内容　富士山のイラストと富士山へのメッセージが添えられた「富士山あて年賀状」

応募点数　1人1点まで

応募規定
- 郵便はがきまたは同等サイズの用紙（100㎜×148㎜）による平面的な作品。
- 画材は問いません。
- 写真や既成のイラストの使用は不可、応募者が著作権を所有する未発表のデザインに限ります。
- 以下の応募者情報を宛名面に明記してください。

①氏名／フリガナ　②住所　③年齢／学年　④職業／学校名　⑤電話番号　⑥募集を知ったきっかけ（媒体）

応募先　富士山ボランティアセンター「富士さんへ謹賀新年」係

〒401－0301 山梨県南都留郡富士河口湖町船津6663－1
（山梨県富士山世界遺産センター北館内）

審　査

審　査
予備審査　平成30年1月24日（水）
本審査　平成30年1月26日（金）

賞

最優秀賞	1点	20,000円分商品券
審査員長賞	1点	10,000円分商品券
審査員特別賞	2点	5,000円分商品券
優秀賞	16点	2,000円分賞品券

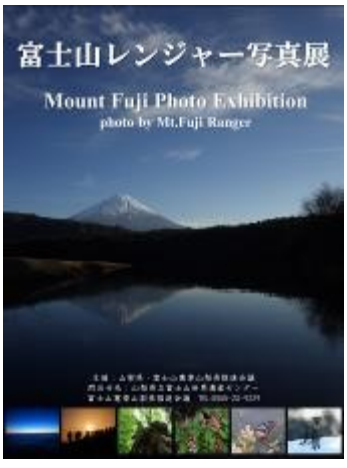
発　表　平成30年1月下旬～2月上旬
富士山ボランティアセンターのHP等で発表します。

注意事項
- 応募者の個人情報については、本募集に関わること以外の目的で使用しません。入賞作品の発表および入選作品展等において、該当作品の応募者氏名と居住都道府県を公表します。
- 応募規定に反する作品は審査対象となりません。
- 規定を満たした作品で、以下の年代別5部門に分け、応募割合に応じて入選作品を選出します。

①小学生低学年以下の部　②小学生高学年の部　③中学生の部　④高校生の部　⑤一般の部

- 年齢の記載がない作品は、一般の部として審査します。

富士山レンジャー写真展 2017



山梨県富士山レンジャーが撮影した美しい風景や植物、富士山が抱えている問題などを紹介しています。富士山レンジャーならではの視点で撮られた写真をぜひご覧ください。

平成29年11月21日（火）～平成29年11月29日（水）	甲府市立図書館（山梨県甲府市）
平成29年12月17日（日）～平成30年1月15日（月）	富士山樹空の森（静岡県御殿場市）
平成30年1月26日（金）～平成30年4月20日（金）	リニア見学センター（山梨県都留市）
平成30年2月19日（月）～平成30年2月26日（月）	やまなしプラザ（山梨県甲府市）
平成30年3月1日（木）～平成30年3月15日（木）	富士河口湖町役場（山梨県富士河口湖町）

※展示開始日は搬入の関係で午後からの展示となる場合がございますので、予めご了承ください。
※各展示会場の休業日や開催時間に関しては、各施設にお問い合わせください。

◆ 富士山環境学習支援プログラムのお知らせ

富士山ボランティアセンターでは、多くの人が富士山とふれあい、知識を深め、富士山を愛する心や環境保全の意識を育むことを目的として、富士山学習の支援事業を実施しております。交通費や謝礼は一切必要ありません。各種研修に是非ご活用ください。

実施日　原則として平日の毎日

実施時間　9時30分～16時30分の時間のうち30分～

受講料　無料

対象　地域住民、各種団体、企業等、および児童、生徒、学生（教員向け研修もあります）

定員　最大60名まで

《申込方法》

原則として希望日の1か月前までにお申込み下さい。

申込書に必要事項をご記入いただき、Fax、郵送またはE-mailにてお送り下さい。申込書につきましては、左記のURLよりダウンロードできます。

http://www.yamanashi-kankou.jp/fujisan/manabo/manabo001/index.html

《注意事項》

・事前の打合せや下見等が必要になる場合があります。

・業務の都合上、希望日に実施できない場合があります。実施時間、定員に関しては規定外でも相談に応じます。

・申込み、問合せおよび打合せは責任者が行なって下さい。旅行業者等による代行は認めません。

体験型研修（ゴミ拾い体験）

出張講座の様子

◆ 富士山環境保全募金・寄付募集のお知らせ

富士山ボランティアセンターでは、皆様からの募金を受付けております。皆様より寄せられた募金は、富士山の環境保全のための費用として大切に活用させていただきます。皆様のご理解とご協力の程、よろしくお願いいたします。

募金箱は次の場所に設置しています。

・富士山ボランティアセンター
・道の駅　富士吉田
・ふじやまビール
・山梨県富士山科学研究所
・三ツ峠グリーンセンター
・富士湧水の里水族館
・山中湖観光案内所
・山中湖　花の都公園
・山中湖温泉　紅富士の湯
・富士河口湖観光総合案内所
・河口湖自然生活館
・道の駅　なるさわ
・なかとみ和紙の里
・湯之奥金山博物館

※　1万円以上の寄付をいただいた方、団体には感謝上を贈呈いたしますので、直接富士山ボランティアセンターにご連絡いただきますよう、よろしくお願いいたします。

富士山憲章（行動規範）

一　富士山の自然を学び、親しみ、豊かな恵みに感謝しよう。

一　富士山の美しい自然を大切に守り、豊かな文化を育もう。

一　富士山の自然環境への負荷を減らし、人との共生を図ろう。

一　富士山の環境保全のために、一人ひとりが積極的に行動しよう。

一　富士山の自然、景観、歴史・文化を後世に末長く継承しよう。

平成10年11月18日　山梨県・静岡県

富士山憲章は、富士山の自然環境等の保全の理念や環境保全のための行動規範を示すことにより、富士山の環境保全への協力を訴え、国民的な規模で保全運動の展開を図っていくこと目的としています。

■編集・発行　富士山ボランティアセンター
（富士山憲章山梨県推進会議）

山梨県南都留郡富士河口湖町船津6663-1
（富士山世界遺産センター北館内）
TEL: 0555-20-9229　FAX: 0555-72-4114
E-MAIL: fujisan@eps4.comlink.ne.jp

本誌のバックナンバーは下記よりダウンロードできます。

http://www.yamanashi-kankou.jp/volunteer/newsletter/index.html

富士山環境保全関連イベントのメールマガジンを希望する方は、「富士の国やまなし観光ネット　富士の国やまなしメールマガジン」の会員登録画面より登録してください。

http://www.yamanashi-kankou.jp/maillmagazine/regist.html